【主な展示資料】　いずれも斎宮歴史博物館蔵

○ 源氏物語須磨巻絵巻（げんじものがたりすまのまきえまき）　江戸時代後期

『源氏物語』須磨より８場面を描いた絵巻。江戸幕府に仕えた絵師、住吉広行（すみよしひろゆき）（１７５４－１８１１）の作。『源氏物語』本文をよく読みこんでおり、有職故実の考証も綿密。本資料は、近年広行の代表作にも挙げられるようになり、評価が高まっている。

中納言の君との別れ

春三月、前の頭中将の須磨訪問

（次ページへ）

○ 三重県指定有形文化財　伊勢物語図屏風（いせものがたりずびょうぶ）　　江戸時代中期

『伊勢物語』の主要場面を金雲の中に散らした屏風。斎宮関連章段である第６９段「狩の使」は、左隻上段中央部に描かれている。本資料のような画面構成をとる作例は、『源氏物語』を描いた屏風では多くみられるが、『伊勢物語』は少なく、開館当初から３５年以上にわたるコレクション整備のなかで、担当学芸員も２、３点ほどしか出会ったことがないという。

左隻

右隻

○ 源氏物語図貝桶（げんじものがたりずかいおけ）　　江戸時代中期

貝覆（かいおおい）に使う貝を収めるための桶。左右一対の桶の身や蓋に『源氏物語』の各場面を描く。大名家の嫁入り道具として制作されたとみられる名品。